

令和 8 年度 事業計画

法人全体の基本方針

【基本方針】 質の高いサービス提供と持続可能な法人経営の両立

① 生産性向上の推進

- ICT・介護ロボット等の積極的な活用と定着を図ります。
- 業務プロセスの可視化と見直しを通じた効率化を推進します。
- 職員の負担軽減と働き方改革を推進します。

② 物価高騰への対応

- コスト管理を徹底し、経営基盤の強化を図ります。
- サービス品質を維持しながら、効率的な資源運用に努めます。

③ 人材確保・定着の強化

- 法人・施設の魅力発信と採用活動の強化に取り組みます。
- 処遇改善と心理的安全性のある職場環境づくりを進めます。
- 研修体制の充実を図り、人材育成に継続的に取り組みます。

④ 地域連携・地域貢献

- 地域包括ケアシステムの推進に貢献します。
- 医療・福祉等の関係機関との連携を強化します。

地域密着型特別養護老人ホーム くぬぎ荘

1. 基本方針

令和 8 年度のくぬぎ荘は、「入居者本位の質の高いケア」と「最新技術の活用による持続可能な運営」の両立を柱に据えます。多職種が密に連携し、入居者お一人おひとりの尊厳を守り、最期までその人らしく穏やかに過ごせる環境を整えます。

2. 重点目標

- ① 入居者本位の個別ケアと生活の質の向上：入居前の生活歴を尊重したアセスメントを実施し、自立支援と個別ケアを推進します。デジタル機器の活用や地域交流により、刺激と楽しみを提供します。
 - ② 看取りケアの体制強化と質の向上：多職種で最期を支える体制を構築します。研修を通じて職員の不安を軽減し、ケアの質を継続的に改善します。
 - ③ 生産性向上（DX の推進）：トランシーバーや「眠りスキャン」、介護ロボットの活用を拡大し、事務負担と介助負担の軽減を図ります。
 - ④ 家族および地域との連携強化：SNS 等での積極的な発信により透明性を高め、家族との信頼関係および地域とのネットワークを強化します。
 - ⑤ 経営基盤の安定と人材育成：戦略的なコスト管理を行うとともに、福利厚生の実施や資格取得支援を通じて、職員の専門性と定着率を向上させます。
 - ⑥ 安全管理と安心できる環境の維持：事故防止や感染症対策を徹底し、BCP（業務継続計画）に基づいた防災体制の強化に努めます。
-

3. 部門別事業計画

【介護部門】

1. 利用者本位のケアの実践：生活歴を踏まえたアセスメントを充実させ、日々の言動をありのまま記録・共有します。YouTube やカラオケ導入により QOL 向上を図ります。
2. 看取りケアの質向上：全職員が自分に何ができるかを考える研修を実施し、外部研修への参加も促進します。支援後は 1 週間以内に振り返りを行います。
3. 家族連携の強化：対面面会を継続し、行事への参加を募ります。遠方の家族には写真や動画で報告し、安心感を提供します。
4. 生産性向上：トランシーバーによる情報共有の効率化、「眠りスキャン」のタブレット移行、介護ロボット導入を進めます。
5. 経営・環境整備：節電の徹底や SNS による魅力発信を行い、Wi-Fi 整備や掃除ロボット導入により環境を整えます。
6. 人材育成：ユニットリーダー研修等への参加を推奨し、資格取得に向けたシフト調整等の支援を行います。

【看護部門】

1. 健康管理と生活支援：入居前から健康不安を確認し、ベッド上で過ごす時間が長い方には離床や移動による刺激を提供します。

2. 看取り体制の整備：スタッフの不安軽減のための勉強会を実施し、看取り加算取得に向けたカンファレンス体制を確立します。
3. 情報共有の効率化：眠りスキャンデータを薬剤調整に活用し、緊急時はトランシーバーで連携します。バイタル値の自動入力システムの導入を検討します。
4. 安全と防災：危険予測（KY）を徹底し、コンセント周りの清掃による火災予防や非常食の確保に努めます。

【栄養部門（管理栄養士）】

1. 食の喜びとニーズ対応：年2回の嗜好調査を実施し、季節感のある食事を提供します。身体機能に合わせた食事形態を多職種で検討します。
2. 業務効率化：レシピの標準化、サイクルメニューの実施、発注業務のデジタル化を推進します。
3. コスト管理：業者比較や冷凍食品の活用によりコストを抑制し、残食量の減少を目指します。
4. 衛生と安全：大量調理衛生マニュアルを遵守し、検便や給食会議を徹底します。ローリングストック法により非常食を管理します。

【機能訓練部門】

1. 個別性の尊重：生活歴に沿った話題提供や、本人の「できること」を引き出す目標設定を行います。
2. 重点的な取り組み：週5日の集団リハビリ（ラジオ体操、嚥下運動等）を継続します。
3. 生きがい作り：誕生会や作品制作を通じ、ユニットを超えた交流や地域への作品展示を行います。
4. 看取りへの関わり：看取り期に寄り添った声掛けやスキンケアを行い、穏やかな最期を支援します。

熊本市北1地域包括支援センター（ささえりあ植木）

1. 地域包括ケアシステムの構築・推進

植木圏域において、住民・事業所・医療機関等との連携を強化し、地域包括ケアシステムのさらなる充実を図ります。地域ケア会議を定期開催し、地域課題を把握して政策化に繋げます。認知症施策や権利擁護業務にも迅速に対応します。

2. 生産性向上の具体的取り組み

- ICT の活用：ケアプランデータ連携システムを活用し、事業所間の情報共有を効率化します。オンラインツールを用いた会議・研修により移動コストを削減します。
- 業務の標準化：業務マニュアルの更新と記録様式の統一により、円滑な引き継ぎとサービス水準の維持に努めます。

3. 物価高騰への対応

消耗品・通信費等の適正な予算管理を行います。訪問時には効率的なルート設定を行い、燃料費の削減に努めます。

4. 安定した稼働の維持

- 担当件数の管理：3 職種 1 人あたり 20 件を目標に、質の高い相談支援を継続します。
- 広報活動：出前講座や地域の集いへの参加を通じて、センターの役割を住民に広く周知します。

5. 職員採用・定着の強化

- 採用活動：3 職種の専門性を維持するため、欠員時の早期補充に努めます。
- 定着支援：チームで相談内容を共有し、精神的負担を軽減します。定期的な面談を実施し、働きがいのある環境を整えます。

6. 安全・安心なセンター運営

- リスクマネジメント：高齢者虐待の早期発見・対応体制を維持し、組織的に対応します。
- 個人情報と BCP：個人情報を適切に管理し、災害時でも機能を維持できるよう BCP を定期的に見直します。

7. 研修・人材育成

3 職種の専門性を高める研修計画を策定し、外部研修への参加後はフィードバックを行うことでセンター全体の資質向上を図ります。